

主圖版① 「三老諱忌字日記・初拓本」



# 「落ち穂拾い記」⑭

## 「三老諱忌字日記」

図版② 三老諱忌字日記・原石（当時は、原石の碑面に手拓したままの拓本が、剥がされずにそのまま付されていた。）



周世熊鑑藏印三種（初拓本所用）

図版③

西泠印社鑑藏印



図版④



図版⑤ 金石拾遺第一集



漢三老諱字忌日記

初拓本

古漢隸四種

70年代から80年代頃には、中国への旅行は大変不便であり、友好目的の中国旅行が中心であった。友人たちも友好交流の合間に、都市の文物商店などに出向き、僅かの時間で碑法帖拓本などを求めていたようである。あれこれ想像するに、当時にあっては旅行費用も高いものであった。筆者は、こうした旅行には参加したことがなく、古書店や友好貿易で文房四宝などを扱う商店などを巡っていた。大學卒業前後頃に、赤坂にある雪江堂という中国民芸を扱う店を知った。虎ノ門の交差点あたりに移転した頃から、割合多くの碑法帖拓本を輸入し出したようである。この店は、当時一家で民間大使として中国に駐在した西園寺公一氏の奥方の名を店名としていた。年に数回の売立の折にも割合多くの拓本が、やや大きな角封筒などに入れて剪装本などとともに並んでいた。ほぼ全部が、戦前に制作されたものであった。そこで購入した拓本の中に漢の『三老諱忌字日記』の整拓本（図版①）があった。原石は西泠印社の三老石室に安置されている数少ない古隸の優品である（図版②）。その時は原刻拓本で字画が丁寧に拓出されていることを確認して求めたようである。その後、当時の出版物や参考書と比較し、調べていくうちに、清末に原石が発見され、最初の所蔵者である周世熊の特色ある三種の鑑藏印が捺され、四段目の始めの「次」字の右端が破損していない初拓本であることが判明した（図版③）。二玄社の書跡名品叢刊の『漢刻石八種』に収録されるのは、所蔵者が太平天国の混亂に遭い原石が失われ、その後取り戻した以後に拓出された拓墨の重い底本を使用していた。（巻頭の縮印の整拓本は『寰宇貞石圖』の石印の初拓本を使用）おそらく二玄社の叢刊の編者等は、初拓本を探し得なかつたのであろう。当時日本で紹介されていたのは、原石が西泠印社に帰してからの「石藏杭州西泠印社」の長方の朱文印が捺されたものである（図版④）。これを機に、『三老諱忌字日記初拓本』を主にして、これまでに収集した漢の刻石小品四種の拓本（『菜子侯刻石』『陽三老石堂題字』『五鳳二年刻石』『□臨為父作封記』）を加えて、一冊にまとめ、木鶴室金石拾遺第一集として自費出版を試みた。解説参考資料を入れ、図版はコロタイプ印刷の精印で、漢の画像石の拓本を表紙に取り入れ、第一集は、1983年の春に五百部制作した（図版⑤）。30代の終わり頃であった。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2021)



生 田 翠 龍



第73回書道芸術院展 「元日述懐」

初めて筆を握ったのは小学2年生のときである。半紙に字をおさめるのに苦労した記憶がかすかに残っている。小3の時、坂口青山先生が担任となられ、それが縁で、後年、書活動にも陰に陽に応援いただいた。小6の頃になると字を書くのが楽しみの一つになっていた。

中学には山本盤翠先生がおられ、書写的領域を越えた指導もいただいた。

中1の時、今の住所地に引越ししたけれど近くに岩垣翠城先生夫婦も転居して来られていて、まだ塾は開いておらず、自宅によく「遊び」に通った。自宅のアトリエで、先生の道具を借りていた。

中3のとき、近くの進学校にそれなりの成績で合格したのだが、父は頑として入学

を認めず、腕試しのつもりで受けていた高校への入学を命じ、やむなくそちらに進学した。その間、進学校との間に緊張した関係になつた。このことは当時の教員の記憶に残っていて、後年その高校で書道を教えることになったとき、進路指導で当地では有名になつていた○教師から、「君があの時の生田君か?」と突然尋ねられ「そうです」と答えると、「そうか」と一言返事されたのみであったが、その後、信頼を寄せていただいた。その後にこう質問された事がある。「僕は字が下手なのだけれど、人の書いた字の上手下手は判るのです。何故でしょうか?」

高専を中退し、大学を卒業して、郷里に帰ったのは25才の時であったが、そんなあ

を認めず、腕試しのつもりで受けていた高校への入学を命じ、やむなくそちらに進学した。その間、進学校との間に緊張した関係になつた。このことは当時の教員の記憶に残っていて、後年その高校で書道を教えることになったとき、進路指導で当地では有名になつていた○教師から、「君があの時の生田君か?」と突然尋ねられ「そうです」と答えると、「そうか」と一言返事されたのみであったが、その後、信頼を寄せていただいた。その後にこう質問された事がある。「僕は字が下手なのだけれど、人の書いた字の上手下手は判るのです。何故でしょうか?」

高専を中退し、大学を卒業して、郷里に帰ったのは25才の時であったが、そんなあ

る日、岩垣翠城先生が当事務所にやって来られ、「何と、書道をせんかいや!」と倉吉弁でまくし立てられ、父も生も呆気にとられながらも承諾した。山陰書道研究所に伺ってみると書塾に等しかつたので、学書にふさわしい内実をと思い、名越蒼竹先生を説き、改めて入門することになった。2人とも雅号はまだのころで、かくして小生は研究所に2度入門したことになった。

入門してからというものの、学書は熱を帶びたように臨書にのめり込んだ。

他方、翠城先生も動きは活発となり今まで散り散りでしかなかつた県内の地方組織を横の交流を計られた。なかなか進まなかつたが、書道芸術院山陰支局の面々で鳥取県中央書道連盟を結成したのを契機に、翌年には鳥取県書道連合会の結成にまで進んだ。

ここまで来て、紙面が尽きました。  
まだまだ書き足りない面もありますが、今回はここまで、では…。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第74回書道芸術院展審候以上搬入  
特別賞選考 春華賞に広瀬舟雲氏

新型コロナウイルス蔓延の厳しい状況の中、第74回書道芸術院展審査会員候補以上の作品搬入、特別賞選考が無事終了、各賞が決定した。現下の状況から地方の選考委員(院理事監事)は上京出来ず欠席された方が約りとなつた。この状況を受け今回に限り事前に選考委員からのご意見をいただき、運営委員長・実行委員長を中心とする選考方法により、全体のバランス、部門間の調整など考慮し選考を行つた。搬入状況は別表の通りとなつた。前

第74回書道芸術院展搬入状況

部門	審査候補	前回展	審査役員	前回展
漢字部	226	256	178	178
かな部	46	48	50	51
現代詩文書部	227	243	166	161
篆刻・刻字部	16	21	18	18
前衛書部	127	148	106	105
合計	642	716	518	513
増減	(-74)		(5)	

(漢字) 小林舟穉、(かな) 熊谷 翔、  
(現詩) 柳川蝶月、(前衛) 工藤山房・  
早坂崩香  
(漢字) 佐伯哲哉・佐野文子・田中  
岳舟・種谷森城・前浜裕香、(現詩)  
磯貝清耀・神本星洸・齊田舞夢・佐  
藤陽春、(前衛) 安藤楊風

(漢字) 阿部雅悠・新井赫扇・安藤  
園・坂本泉翠・佐藤翠慈・塙出喜彌、  
清水蘭舟・富原扇水・中島藤邑・根  
橋明香・深田幽春・本郷谷恵・三浦  
小樹・宮内耕雲、(かな) 小田切美  
由希・清水由紀子・高山裕子・松本  
泰子、(現詩) 井口静峰・井上雲開・  
宇谷翠光・大友四峰・小泉玲子・齋  
藤久子・酒井如雲・笹木蒼風・高浦  
英峯・千葉紅雲・長南一恵・坪江彩  
苑・芳賀志峻・長谷川翠・吐生云彌・  
矢作宏子・吉田溪花、(篆刻・刻字)  
伊藤碧水・篠田華所、(前衛) 青木  
かよ・木原尚子・栗原りか・近藤桜  
紅・佐藤成美・佐藤陽子・鈴木栄洋・  
同 傑英賞

第74回春華賞 現詩 広瀬舟雲氏  
対象の大賞・準大賞・白雪紅梅賞・俊  
英賞選考、29日審査会員対象の春華賞  
選考が行われ、各賞が決定した。  
(速報)

回と比べ審候がやや減少したが、審査  
会員は増加となつた。  
1月27日都美へ作品搬入、28日審候  
英賞選考、29日審査会員対象の春華賞  
選考が行われ、各賞が決定した。

林一宏・廣瀬幸枝・吉田恵弦  
同 春華賞、同候補(A 赤シールで  
表示 秋季展選抜作家)

阿部邑里・大嶋珀暉・大友紅薺・神  
澤凌雲・千葉光泉・中塩朱華・名取  
雅子・野口加奈・柳橋香仙

秋季展企画「書道芸術院推薦作家展」  
同 内内熒軒・徳岡翠江・西川  
翠嵐・西川藤象・小林舟穉、(かな)  
利村郁子・熊谷 翔(現詩)木村  
笙園・千田春月・齊藤恭子・柳川蝶  
月、(篆刻・刻字) 大沼雄峰、(前衛)  
浅野彩紅・工藤山房・早坂崩香

(会場 アートサロン毎日・一人壁面2m)  
(アートサロン企画展に出品していた  
だき、秋季展へは出品しない。)  
第75回書道芸術院展大作出品者  
(漢) 中尾琴麗、(かな) 佐藤希雲、  
(前衛) 知野洛水

春華賞最終候補より3名を指名する。  
\*表彰式(一般展・学生展とも)  
\*祝賀会 作品解説会

\*学生展席上揮毫会 ワークショップ  
\*会場風景動画を書道芸術院ホームページ  
ジに掲載する。是非ご高覧を。

(その他の秋季展選抜作家)  
A 同役員全員(顧問・理事・監事・  
評議員・参事)  
B 書道芸術院展名譽会員全員  
C 同参与会員(△交替)  
(漢字) 生田翠龍・今関心華・上田  
琴秀・小竹正高・小浜桂雪・島田白  
露・高田春采・高安翔琴・種谷悠輝・  
浪川秋花・林春雪・藤原聖美・森田  
藤谷・山岡扶佐・山崎阜月、(かな)  
奥田瑞舟・九條純代・濱田竹雪・藤  
村昌子、(現詩) 相澤正華・浅利雪  
・会期 2月5日~11日  
第74回展主要日程  
\* 2月4日陳列、記者会見  
\* 表彰式(一般展・学生展とも)  
\* 祝賀会 作品解説会  
\* 学生展席上揮毫会 ワークショップ  
\* 会場風景動画を書道芸術院ホームページ  
ジに掲載する。是非ご高覧を。

新企画として74回展大賞・準大賞受賞  
者(75回展から審査会員に推举6名)に  
春華賞候補より毎日書道展審査会員を  
除く各部門より推薦された9名、計15  
名に出品を依頼する。

出品推薦者15名  
(漢字) 大内熒軒・徳岡翠江・西川  
翠嵐・西川藤象・小林舟穉、(かな)  
利村郁子・熊谷 翔(現詩)木村  
笙園・千田春月・齊藤恭子・柳川蝶  
月、(篆刻・刻字) 大沼雄峰、(前衛)  
浅野彩紅・工藤山房・早坂崩香

(会場 アートサロン毎日・一人壁面2m)  
(アートサロン企画展に出品していた  
だき、秋季展へは出品しない。)  
第75回書道芸術院展大作出品者  
(漢) 中尾琴麗、(かな) 佐藤希雲、  
(前衛) 知野洛水

春華賞最終候補より3名を指名する。  
\*表彰式(一般展・学生展とも)  
\*祝賀会 作品解説会

\*学生展席上揮毫会 ワークショップ  
\*会場風景動画を書道芸術院ホームページ  
ジに掲載する。是非ご高覧を。

## かな基礎基本講座(9)

下谷洋子

## 現代詩文書基礎基本講座(9)

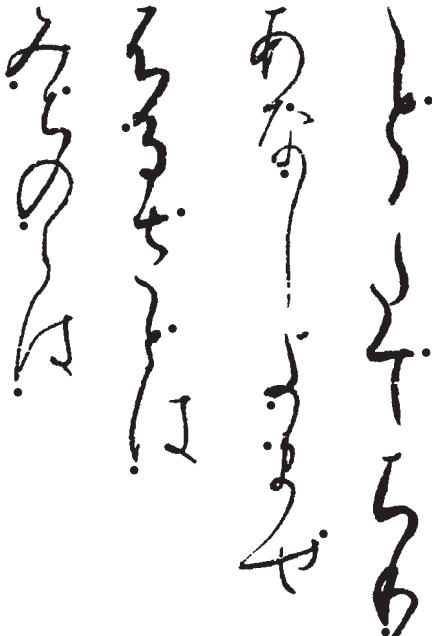
小竹石雲

### 連綿(5)

#### \* 息つき

これまで、連綿の方法から変体がなの役割について述べてきましたが、今回は、あらゆる連綿に必要な息つきについて説明します。どのような文字の組合せでも、伸びやかに書くために、息つきは必要です。

- ・1文字が終わった所では休まない
- ・息つきは、筆を上げて瞬時に行う
- ・筆先が紙から上がらずには休む(止まる)と、コブになるので気をつけたい
- ・印 息つきの位置



◎ 基本的には、次の文字の第1画目、或いは次の画に入る部分まで書いて息つぎすると、何文字でもスムーズに連綿できる

1字の中でも方向が変わった時に息つぎする場合もある  
息つぎの時に手本を見る（見ながら書かない）



①写実的臨書

②発展的臨書

**【孔子廟堂碑】** 虞世南 唐 六二八～六三〇年頃  
長安の国子監内に孔子廟が造営された。この石碑は、儒教を宣揚し、建立の趣意を述べた記念碑で、撰・文ともに虞世南である。原碑は唐末に失われたものの、宋代に覆刻された。原石拓が、日本の三井家に伝来。

・原帖

## 基礎基本講座

- 特徴**
- ・向勢・内剛外柔・穩やかな用筆。
  - ・純化されていて明るく品位が高い。
  - ・落ち着いた安定感。
  - ・遠勢→余韻や広がりが生まれる。
- ①写実的臨書
- ・筆の構えは側筆だが、九成宮よりは直筆。
  - ・筆管は進行方向に傾けて運筆する。
  - ・点・線の間隔は均等にし、向勢で縦長な字形をとることで、温
  - ・和で上品さも増していく。
  - ・起筆は遠くから軽やかに入筆し、胴を膨らませるように書く。
  - ・運筆については邪念を持たず、簡潔に心静かに爽やかに運ぶ。
- ②発展的臨書
- ・明るさに主軸をおいて臨書してみた。その為には接筆に余白を持たせ、又字形は窮屈にならないように偏と旁を広めにした。
  - ・原帖より少し細めに落ち着いた。
  - ・運筆を試みた。

# 現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2021)

和光ホール 2021年1月5日(火)~9日(土) 和光本館6階

主催:毎日新聞社・(一財)毎日書道会

干支文字



辻元大雲



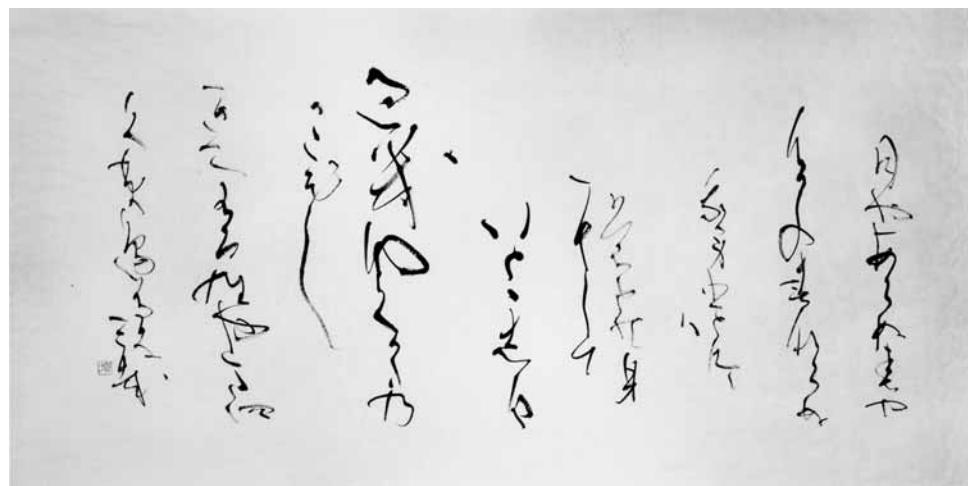
「手をあわせ」三枝昂之句

74×164cm

干支文字



下谷洋子



「いとどしく」『伊勢物語』在原業平

70×138cm

## 隸書木簡（漢時代）②

筆者不明

（解説）タクラマカン砂漠を中心に多数発掘された木簡は書道史上実に貴重な資料となつた。紙がまだ普及していなかつた当時の書法を肉筆が生々しく示している。篆書、古隸、八分、章草、行意や草意のあるものなどさまざま書体で書かれていた。（上掲①敦煌漢簡は八分、②敦煌漢簡は古隸で

書かれている。）また同じ隸書でも字形や書風は実に多様である。文書の内容は諸記録・書簡・貢物目録・医薬処方・暦・諸史籍などであり、古代人の日常生活記録と言える。筆者は奇を衒うことなく自由奔放に筆を走らせ、書くことの喜びを後世に伝えているようである。

（編集部）

大英図書館蔵（拡大）



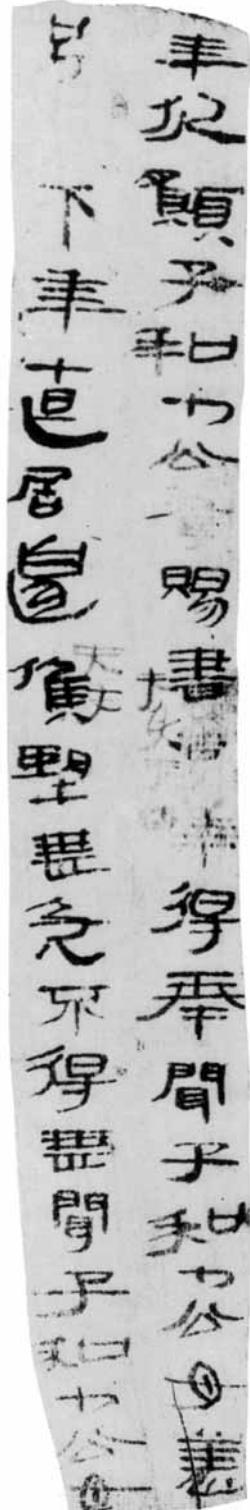
①敦煌漢簡

精候望即有蒸火  
亭際顯處令盡諷誦知之  
高隸回度舉母火

扁書亭際顯處。令盡諷誦知之。／精候望即有蒸火。亭際回度舉。母必……

②敦煌漢簡

大英図書館蔵（拡大）

年伏願子和少公。幸賜書  
(夫即天命)

□

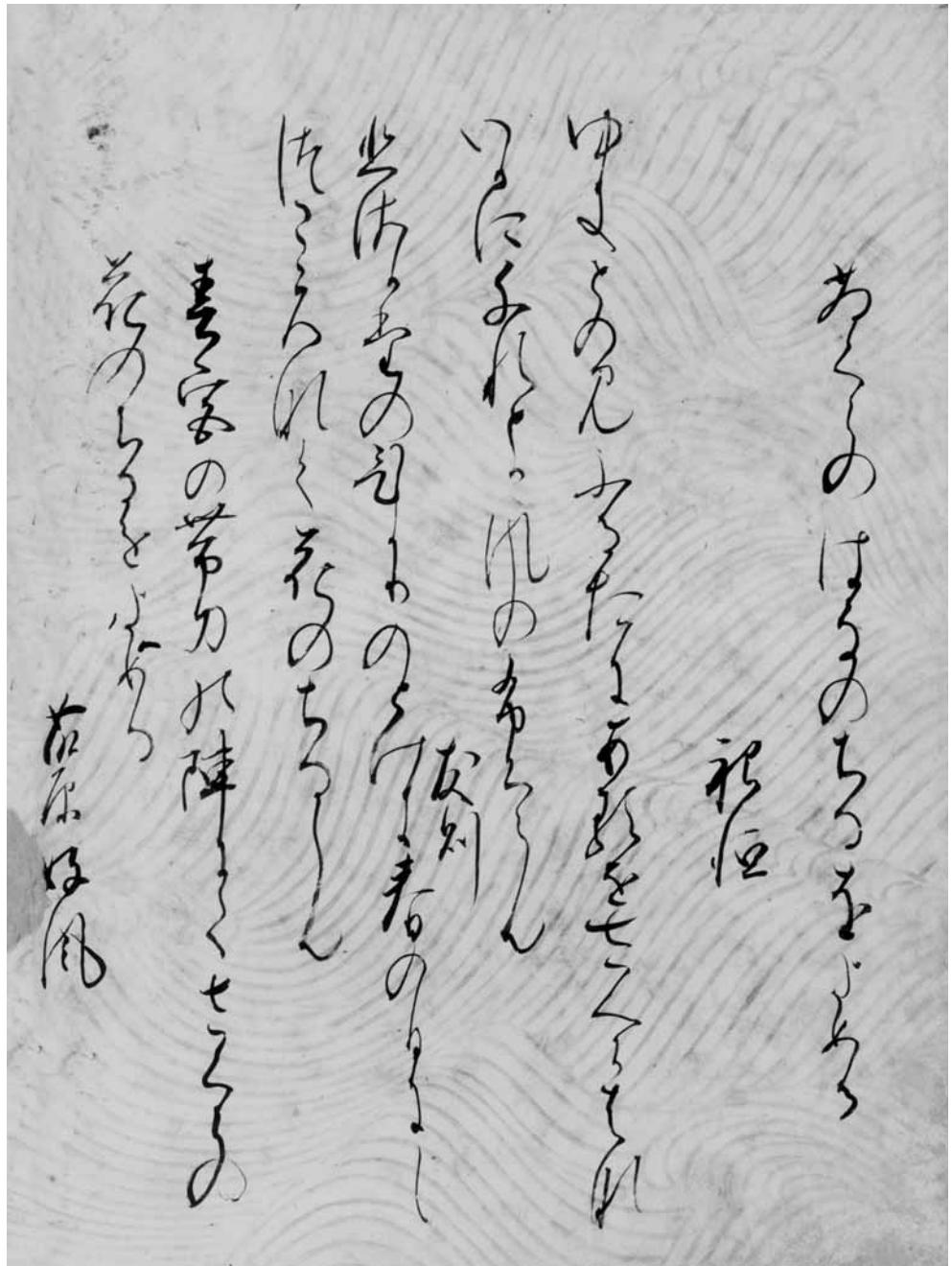
年得奉聞子和少公母恙。  
足下。年直居邊。候  
(夫夫) 望甚急。不得甚聞子和少公母  
(恙)。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみ可）

漢字研究部臨書課題（半紙普通判・縦使用）上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

※ 特別研究部臨書課題（A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可）  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/6(約68×68cm)以内も可(縦横自由))

→ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の①・②「敦煌漢簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。



(東京国立博物館蔵)

(掲載図版・85%に縮小)

## 特別研究部臨書課題

かな研究部臨書課題 (半紙普通判 (料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全體も可)

B.A. 小品の部 (半切以上、半切以内、金紙約68×68cm以内も可) (縦横自由)  
△該古筆の左記掲載部分以外も可。▽

〈よみ〉  
さくらのはなちるをよめる  
朝恒  
ゆきとのみふるだるをさくらばな  
いかにちれとか風のふくらん  
友則  
ひさかたのひかりのどけき春の日にし  
づごゝろなぐ花のちるらん  
春宮の帶刀の陣にて、さくらの  
花のちるをよめる 藤原好風

〈解説〉書とともに元永本古今集の美しさを構成する要素は料紙にある。紫・赤・黄・茶・白など色とりどりの和製の唐紙が使用され、濃から淡、淡から濃へと色を重ねるように用いられる。表面には唐草・菱文様・亀甲などの型文様が雲母摺り、空摺りされ、裏面も金銀の切箔・野毛・砂子などを撒いて華麗に装飾されている。(本紙寸法は21.1×15.5cm) その書は料紙の色の濃淡に応じて筆線に変化を与え、冊子の後半にはさまざまな散らし書きの妙を見せていく。この筆者は源俊頼と伝えてきたが、今日の研究では、当時屈指の能書であった藤原定実(藤原行成の曾孫)と推定される。(編集部)

※落款を必ず入れる。  
○○臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

辻元大雲

（章應物）

掃雪開幽徑  
(雪を掃って幽徑を開く)

今回と次回は5字句です。小道

の雪を払つて、友人の来るのをを迎える意です。2月寒さの厳しい時に友と旧交を温めるのもいいかも知れませんね。

5字句を半紙で表現する場合は、1字がやや小さめになり、こじんまりとした雰囲気になりやすいことに注意しましょう。思い切って大胆に大小をつけてみるのもいいかも知れません。

参考例は行書で平凡にまとめています。様々に工夫を凝らした表現を試みてください。

掃雪開幽徑 よみ（雪を掃つて幽徑を開く）

書体＝自由



習い方解説(五)

名越蒼竹

以智慮後(ちをひらむのち)  
(智を以て後を慮る)  
(張翰)

智慮を以て、後のわざわいのないようにする。

もう一度精逐良を取り上げます。

晩年の名作、雁塔聖教序の書風を真似るようにしました。鋒先の彈

力を活かし、細身ながらしなやかでフェンシングの剣のような線質

を目指します。筆圧の変化と吊り筆を覚えるには最適の楷書ですし、

点画に曲線が混じる点は、字形バランスを最終画まで微調整が可能

で、緊張感の中にも遊び心が入る余裕も持ち合わせています。行意

を加味しながら楽しんで書いてください。以前、今は亡き元書道芸

術院会長種谷扇舟先生の全臨作を見て感動したことを思い出します。

以智慮後 よみ(智を以て後を慮る)



書体=楷書

かな規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

奥田瑞舟選書

## 習い方解説 (二)

奥田瑞舟

限りなく降る雪何をもたらすや

(西東三鬼)

うゑみわ

俳句作りの際、句の中の一語一字の選定は特に吟味されます。この作者が選び抜いた句中の漢字も、大切な役割の文字と思いますので、変えたくないのですが今回、漢字は使わず、変体がなを多用して、連绵線でつなぎ「流れと躍动感あふれる動き」を意識しました。

いつも理想としている制作上の構えですが「試行錯誤」は充分のつもりですが完成の域に達していません。旺盛な筆意は忘れずに。

動き大きく、しかし品格も加味されて魅力的な作品に仕上げてください。



うゑみわ

うゑみわ

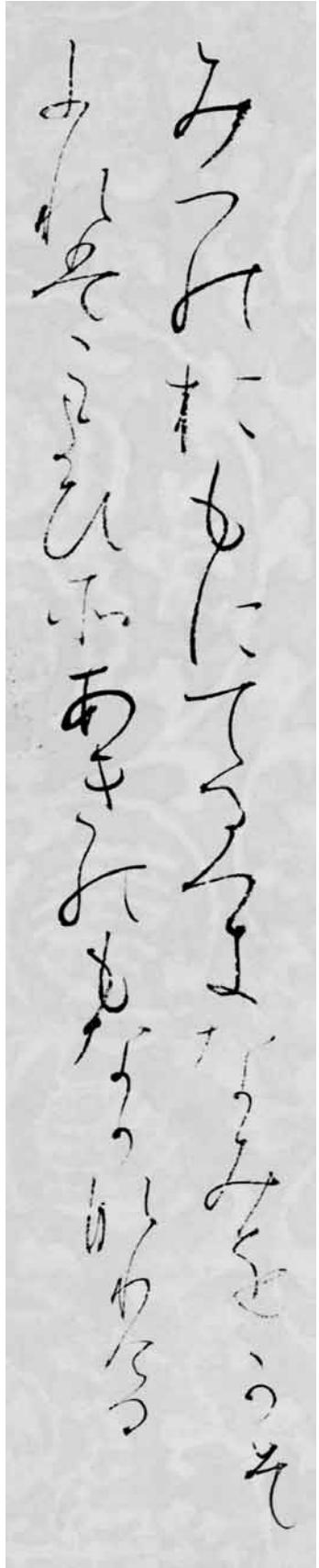
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

よみ方 限(可き)り(利)な(那)く(久)降(婦)る雪(遊支)何(奈耳)を(越)も(裳)た(多)ら(良)す(春)や 三鬼句 創作

かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書

### 習い方解説 (二)

松村くに子

おしなべて緑にかすむ木の間より

ほのかに見るは梅の花かも

(良寛「草露」)

変化に富んだ美しいかな作品にするために、いろいろな手法があります。その一つとして渴筆部分の表現があります。

自然な流れになるよう墨が続かない時は、早めに補墨をしてください。側筆を使うときは、筆先を寝かせる時の角度、速度の緩急にも気遣いながら、力を加え過ぎないよう運筆することが大切です。

\*タテ形式に限る

よみ方 おしなべ(緑)にかすむ(無)木の間(万)よ(與)り(里)

ほ(保)のか(可)に(耳)見る(流)は(者)梅の(能)花(盤)那(カ)可(可)も(毛)

創作

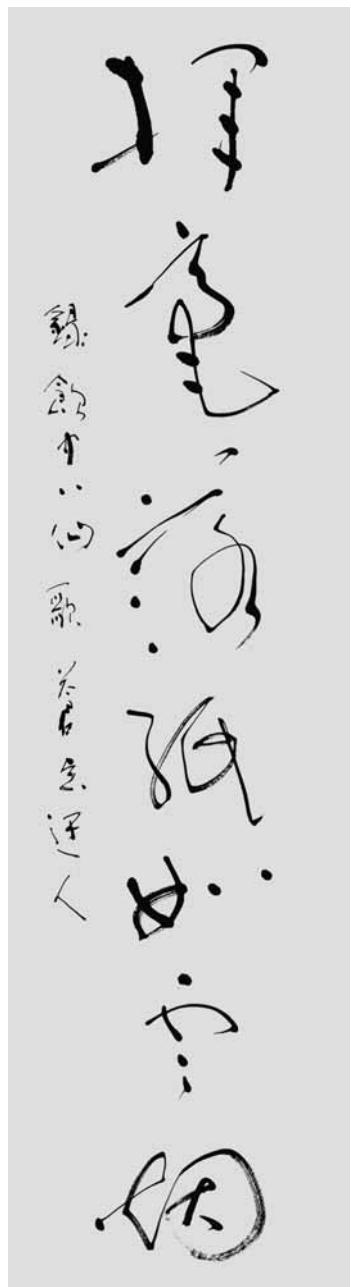
漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

書体=小画仙

千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (五)

千葉蒼玄



揮毫落紙如雲煙  
（杜甫）  
（毫を揮って紙に落とせば雲煙の如し）

・ 錄 飲中八仙歌

書体=自由  
※タテ形式に限る

張旭の最後の句は、天才の揮毫の様子を連想させる。まさに靈感で舞い降りる作品である。蘭亭叙がその最たるものであるが、名品として残るものは即興の作品が多い。中国の連綿草と違い、日本では単純化された“かな”に変化し良寛の草書が生まれる。書は線の妙味もあるが、空間の美しさも重要な要素の一つである。

※「揮毫落紙如雲煙」のみも可  
※落款は必ず入れる

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大隅晃弘選書

習い方解説 (五)

大隅晃弘



十七帖等を念頭において規範的な草書体での書作です。草書体での創作は、筆路を追うことだけに気を取られがちです。字典などで書字構造を確認し、起筆・送筆・收筆を意識しながら、慎重な運筆を心掛けてください。

矜歎者弊於拘束 脱易者失於規矩  
(矜歎なる者は拘束に弊れ、脱易なる者は規矩に失う)  
(孫過庭「書譜」)

書体=自由

華麗な連綿草も魅力ですが、草書体の骨格を無視し、表面的な形式だけを真似ることは危険です。

川島舟錦

牧野富太郎博士の偉業を顕彰  
するため設立された牧野植物園  
では、高知県の植物や博士ゆかり  
の植物(スコササ・他)など四季折々  
約三〇〇〇種が楽しめます。

舟錦書



書体=自由

牧野富太郎博士の偉業を顕彰  
するため設立された牧野植物園  
では、高知県の植物や博士ゆかり  
の植物(スコササ・他)など四季折々  
約三〇〇〇種が楽しめます。

ご注意!! 用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

△用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

下敷きは、硬いものより、ペンの弾力を  
助けるもの、藁半紙を10枚～15枚ほど敷く  
と気持ちよく書くことができます。

ペンは、たくさんの種類がありますが、  
「万年筆の極細が一番美しい線で、流れる  
ように書ける」と、信じています。最初は、  
少々軸が硬くて、使い勝手が悪いですが、  
練習を重ねることに自分の手に馴染んで書  
きやすくなります。

啓上 拝白 春寒 余寒なお厳しく  
啓上 拝白 春寒 余寒なお厳しく

春とは名ばかりの寒さですが如何お過ごし  
春とは名ばかりの寒さですが如何お過ごし

岩垣若翠

(楷書) 啓上 拝白 春寒 余寒なお厳しく  
(楷書) 春とは名ばかりの寒さですが如何お過ごし

(行書) 啓上 拝白 春寒 余寒なお厳しく  
(行書) 春とは名ばかりの寒さですが如何お過ごし

基本用語

「啓上」申し上げること。「一筆啓上」。  
「拜白」一般的な「拜啓」等に対する結語。

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を

(掲載手本90%に縮小)

◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

# ホープ作品 各部総評 NO.716

ペン字部 師範 石毛 喜蘭  
ペン先を存分に活かした筆致は、まるで毛筆のよう。字形も美しく、深みと立体感に溢れた見事な作。

◎ペン字部總評 誤字もほとんどなく、流れのある作品が多かった。行書体や連綿は自口流にならぬうに注意しましょう。（孝子評）

「天災は忘れられた頃来る」の言葉で有名な寺田寅彦は、幼少・少年時代を父の郷里高知で過ごしました。高知市内に邸宅があります。

喜蘭書

かな条幅部 準師 小峰美加子  
かなだけで表現した作品は優しく柔らかな響きを放っている。控えめな墨量は更に品性を加味した。

◎かな条幅部總評 少ない字数を大きさで補うかのような過大な字は見苦しい。余白を大切にしたい。国語の誤字散見は残念。（明子評）

漢字条幅部 師範 鶯山 美相  
やや厚味の線で、落ち着きある行書表現。自然な運筆のリズムが安定感を生んで妙。

◎漢字条幅部總評 書体書風の自由な条幅作では色々な挑戦が可能です。用具用材の選択も大きな要素です。多彩な取り組みを。（大雲評）

前衛書部 特選 西山 茂龍  
独自の作品を創出。中央の余白輝く。両側の版画的技法も細線の動きを強調させている。

◎前衛書部總評 書線とは？紙面に食い込み筆勢充実した書線は大切。より線の研究を。（京子評）



現代詩文書部 特選 尾形 紅霞  
濃墨・長鋒筆を使いこなし、墨量豊かに変化に富む線でリズム良く書き通す。余白も美しい快作。

◎現代詩文書部總評 文字造形や構成面でやや意匠を凝らし過ぎと思える作品が目立つ。（嵐峰評）



張旭三杯草聖傳脱帽露頂王公前 美相書  
紙に対する字粒の小さすぎるものが多く、再認識したい。（洋子評）

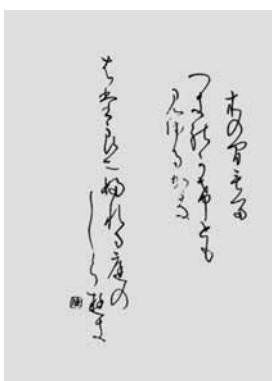
◎かな部總評 比較的よくまとめていたが、やはり筆が小さいのか紙に対しても字粒の小さすぎるものが多く、再認識したい。（洋子評）

伸びやかに筆を操り、自然なりズムが清々しい。墨色の扱いも適格で、料紙に散布も調和した快作。



漢字部 師範 宇田川春華  
鶏毛筆を用い、変化ある線で魅力的な隸書作品。草書の落款も調和しているが雅印も欲しかった。

◎漢字部總評 上級は重厚な書風の行書が多く充実していた。草書篆書作品に誤字が見られたので要注意。丁寧な校字を。（萬城評）



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 東福青菴 石井明子

## 小品の部

漢字  
(八街)

小川白柳 「奉送五叔入京兼寄慕母二」



小川白柳書

135×35cm

部分拡大



現代詩文書 (花埜)

高橋奎媛

「雪かきを誰が」



68×35cm

◆小品ながら上  
下2段の大小の  
構図が面白い作  
下部ののびやか  
な広がりが効果  
を發揮している。  
(大雲評)

(青菴評)

漢字  
(八街)

小川白柳 「奉送五叔入京兼寄慕母二」

135×35cm

部分拡大



かな

(宗宛社) 茂木絢水 「わがこひは」



35×135cm



茂木絢水書

創作の部(40点)

漢字 - 6点

かな - 5点

前衛 - 9点

漢字 - 12点

かな - 20点

漢字 - 1点

かな - 2点

漢字 - 1点

かな - 1点

漢字 - 1点

かな - 1点</



漢字研究部  
(石鼓文)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



岩 潤 祥 苑

漢字研究部 特選 岩 潤 祥 苑

臨書に対する真摯な態度が伝わって来る。  
用筆・字形の特徴等、しっかりと押さえられ  
ており、紙面の布字もバランスが良い。この  
姿勢を維持しつつ、更なる線質の向上に努め  
られることを望む。落款はぜひ入れたい。

◎漢字研究部総評

落款を見れば実力者と思われる人も苦戦し  
ておられる様子がうかがえました。以下の点

- 1 用筆は露鋒を避け、藏鋒とする。
  - 2 字形の右上がり・下膨れを避ける。
  - 3 分間分布の統一感を心がける。
  - 4 筆圧はほぼ変化させず、特に終筆部で押  
さえない。
- 字画が不鮮明なところもあるので、呉昌碩  
の臨書や篆書字典を確認すると良いです。



藤 雅 良 澄 朋 竹  
風 秋 子 華 美 凤

初 萩 美 祥 雅 香  
奈  
江 芳 子 扇 代 舟

妙 琴 裕 清 京 翠  
華 煉 美 耀 子 玉

美 英 舜 天 美  
り  
艸 二 水 奈 心 梢

かな研究部  
(十五番歌合)

選評 勝山初美

今月のホープ作品

そぞろくやまわし  
昌太川をすまう  
佐とおでひなまき  
ほなまき

小峰 美加子

◎かな研究部総評  
字形は良く臨書されていましたが、墨色の変化に乏しくメリハリに欠ける作品も多々ありました。良末の1画目が見落とされた作も散見、拡大鏡で観察を!

筆庄の軽重による太細の変化や側筆による右回転の線質は肉厚で重厚、良く特徴を捉えています。



由紅雅  
美  
子雨泉

寿登良  
美  
子江泉

美幹愛  
梢生石

由紀子  
香舟

かな研究部 特選 小峰 美加子

誠高姪 大京光紅  
和崎と阪橋彩瑠  
秀  
石飯安天東浅藍  
崎島藤羽 川澤多  
甘律美蕙花なし  
白子 悅子子江珠

大菊書中幸英清た一仙潮正A澄竜紅高颯大う石上紅A高崎  
雪月泉川扇峰月か草台音華!春泉風崎菱雲る習泉瑠!特選  
堀新永三山吉小樋中熟齋石生植高田矢後驚飯松塚須清小峰美加子  
切并井田本懶林泉村海藤川方田播煙口藤山高丸本ちえ香紀子  
知由 寿  
幸惠伯蒼梅彩嘉雪一桃杏津美紅雅美登良美幹愛生石子舟子子雨泉子江泉

華高長A長上桜上清A玉有 澄明菊華玉清高』華琇こ正青大中高白澄菊大  
仙崎月I月泉草泉月I松秋 春漢月仙川月岐『仙韻こ華蓮阪川井驚春月雲

山松増堀原早苗中徳寺田武鈴新島島篠佐境酒木菊加加小荻大櫻江宇岩磯  
口浦田江澤部代村江原中山木行 塚藤野田島地納藤瀬野田島田口川田貝明  
雪玉佳幸典 佳ヶ淳恵耶花睦瑞美悦謙綾和知幸恵順翠日朱良竹和茉春博清  
翠江子泉子朗惠子子衣源心華子子心奈子子風水子陽夏星鳳子悠華子耀

昌竹蓮華祥華大千蓮上白生長正一幸春上大秀も高立恵甲墨竹書書た蒼正附一大樹正梅八  
苑美紅仙紫仙雲葉紅泉露大月華弦か扇堅江泉阪水く真精石和縁原游泉か陽華泉中弦雲原華桃か  
入 吉横遊山山柳三松本古藤平林早浜野永中中富戸鶴千田高鈴代庄七猿込小吳國工河葛岡大梅鶴伊井伊市五十新井  
青木 選 田山佐本田瀬浦重田多谷本山 坂野村井山尾田澤部淵田村藤木田司三渡山沼峰藤合田西津澤与ノ東市川井  
松月 180 翠蘭紅美 奈道翠美和美喜だ美萌永幸悦知恵秋藤ア白惠松節葉咏和菴美豊琴和と惠麻一代琴玉春京チ子子舟泉峰子子雪郷  
綾舟雅楓京津子景雪枝子惠子子香莖城子子彩子風子希香石美子子艸美右艸結美翠香敬美美子舟泉峰子子雪郷

硯光蕙『澄英芳菊う蘇こ大たこ高墨大秀大蒼千う祥千梓土清無大澄明蕙四椿一こ土正久澄誠竜和華八蘇堺有大水清生澄松  
水彩書』春峰蘭月る我だ阪かだ真花雲畠雲葉る紫葉江氣月門雲春漢書枝翠弦だ氣華賀春と泉平祥街我松村

佐櫻坂齊齊斎斎後小小木小高小黒熊久木北菊川金勝片加小岡大大遠梅白鶴岩入今井板石石石生飯新阿阿青  
々田本藤藤藤實藤松林島薯口武池柳井保村村地元崎子野山瀬尾村友島藤原井澤剝瀬谷上垣渡田川駒島井部久木  
木登み由  
雅龍里靜翠早江 裕惠東萩晃み美智玄直竹宏智順志泰茱一つ天恵夏和紀四昌光虹綾李祥祥悠貴英青翠蘭悦洋萩洋翠冬  
芳貞美流香苗彩功峰子字江代子紀子城子葉子美子子峰仙人江心風峰子子葉祥乃名苑園花泉二鳳徑雲子子花子賣華

選こ京明東や玉椿 松八春菊こ幕楓高澄誠有澄 上は麗 上水青高土桂大 白大四翠千や華高天正青書澄上祥土高明正秀大春  
外選だ橋漢伯ま川翠 村街汀月だ張会真春と秋春 泉せ澤『海蓮崎氣泉雲 橋雲枝柳葉ま仙真蹟華峰游春泉紫氣崎漢華敢拙汀

137吉吉吉山山谷安森茂村富宮宮松松増福福深喰濱長萩根根沼ニ西中中富積塚近種田竹武田瀬高高杉杉神嶋柴佐佐  
名野田田本口知鴨田木上野崎川島坂尾田原田澤尾田谷原岸崖田通澤村林江澤田池谷玉井井口田田宮田名藤  
氏子千 裕眞 美有 か川 とみる  
名彩佑鶴真律美沙龍翠佳津英洋翠津希華里流佳は陽久 洋正み奎麗瓈笙清よ白雅美柳森哲香一代嫗千徹幸代睦祥玉  
略祥子子紀子子博芳月枝明子舟江子秀明源月る一子翠子子心子美泉香子雲雲翠芳城子華江子葵代子苑子子風枝子子子子

## ●篆刻

【三月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

- ① 墓刻 (ア)課題による語句  
(イ)原印自由

(出典の際、原印のコピー添付)

- ② 創作 語句自由

- 印面の大きさは3.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、墓刻とも応募は一人一点。

### 2月号 墓刻課題



#### ◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の収文を明記、並びに落款（氏名）を入れる。

(墓刻)	
特選	大雲 小沢 華仙
佳作	上大雲 やまもと 佐藤
入選	蘇我泉 大雲書水
(50音)	やまと さとう
(創作)	
特選	閔口 天峰
佳作	遊雲書画 慈空惠相川
入選	高枝耀空阿赤相川
(50音)	たかえいあくら
(創作)	
特選	大石心大雲
佳作	慈空惠相川
入選	高枝耀空阿赤相川
(50音)	たかえいあくら
(創作)	
特選	佐藤天峰
佳作	遊雲書画 慈空惠相川
入選	高枝耀空阿赤相川
(50音)	たかえいあくら
(創作)	
特選	佐藤天峰
佳作	遊雲書画 慈空惠相川
入選	高枝耀空阿赤相川
(50音)	たかえいあくら

定価	
一部	七五〇円
二部	一四〇円
三部	二一〇円
四部	二八〇円
五部	三五〇円
六部	四二〇円
七部	四九〇円
八部	五六〇円
九部	六三〇円
10部以上	送料免除

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
令和三年二月二十五日印 刷  
行 発 行 日  
行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七一八号

71号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

篆刻

創作

<特選>



「王光私印」



「永愛嘉福」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区  
東神田一一六一七  
東神田プラザビル三階  
101-0031 電話(03)3866-11954  
FAX(03)3866-11955  
振替 00150-4115055  
[ホームページ](http://www.lms.co.jp/shogei/)

お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

### 送 料

一か月の購読部数が  
1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は  
送料免除

令和三年一月二十五日印刷  
令和三年二月一日発行

辻元洋一(大雲)

編集兼  
发行人

印 刷  
アーティスト  
株式会社 リンクス

発行所 公益財団法人 書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田一一六一七  
東神田プラザビル三階  
電話(03)3866-11954  
FAX(03)3866-11955  
振替 00150-4115055  
[ホームページ](http://www.lms.co.jp/shogei/)